

Contents

- 02 虹のメッセージ
- 02-05 **新春対談**
- 06-07 商品ものがたり
産直 ひらがいの卵(国産)
- 08-09 食とくらしの安全・安心
・食の安全・安心
「専門家と消費者の意識差」
・くらしの安全・安心
「だまされやすさ心理チェック」
- 10-11 information / ユニセフお年玉募金へのご協力のお願い
- 12 きょうされん京都支部×京都生協協定記念イベント報告/
第22回 Coop Fan Meetingのお知らせ
コープファンミーティング
- 13-15 読者投稿コーナー ほっとTIME
- 16 四季彩ごはん **巾着卵のえのきあんかけ**



新春対談

有限会社シサム工房代表取締役

水野 泰平さん



京都生協理事長

畑 忠男

世界中のみんなにとって
「良き隣人」であり続けたい



京都でフェアトレード*1事業を中心に、エシカルな商品を取り扱うことで社会をより良くしようとする「シサム工房」の水野さん。同じ志を持つ者同士で、これからの自分たちのありかたと役割について語り合いました。



新年に寄せて

理事長 畑 忠男



新年おめでとうございます。日頃より、京都生協のご利用や活動へのご参加、誠にありがとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染が拡大し、社会や経済、私たちの暮らしにまで大きな影響が及びました。そのような中、京都生協が行う事業（宅配・店舗・福祉・葬祭・共済）は日々の暮らしを支える生活インフラであるとの認識のもと、感染防止の取り組みを徹底しながら事業を継続しました。利用が伸びる中、個数制限や欠品などが発生し、期待にお応えできなかったこともあり、大変ご迷惑をおかけしました。一方で、組合員の皆さまからたくさんの感謝の言葉を頂き、職員一同、とても励みになりました。

京都生協は創立以来、助け合いの組織として、誰もが安心して暮らすことができる地域社会、持続可能な社会の実現に向けて取り組んできました。今、日本でも世界でも、地球温暖化や平和、貧困や格差問題などの課題が山積しています。これらの課題解決に向けて、協同組合の役割発揮が期待されていると考えます。

コロナ禍で「つながり」の大切さが再認識されています。「頼もしい隣人たらん」という京都生協の創立理念を改めて大切にしながら、SDGs（持続可能な開発目標）の実現などにも貢献していきます。そして、日々の組合員の皆さまの食を中心とした暮らしを支えていく決意です。本年もよろしくお願いいたします。



▲対談を行った
「シサム工房 裏寺通り店」
京都府京都市中京区裏寺町通蛸薬師上ル
裏寺町591
☎075-212-1653



シサム工房のフェアトレードを語る上で、なくてはならない言葉 ▶

「隣人」として、一緒に生きていきたい

畑 水野さんがフェアトレード事業を始められたきっかけをお聞かせいただけますか。

水野 大学時代にアパートヘイト問題に出会い衝撃を受け、国内外の人権問題に関心をもち、世界を見ようというバックパッカーでいろいろな国に行きました。それまで「自分は格差問題に対して何かできる存在だ」という思い込みがありましたが、現地にはかわいそうな人たちがいるのではなく、厳しい状況の中でも普通の日常があり、私と同じ喜怒哀楽があって、たくましく生きている人たちがいました。

その時、「この人たちのために何かしたい」ではなく、「この人たちと一緒に生きていきたい」と思ったのです。それが自分の生き方のテーマになりました。大学卒業後はエスニック雑貨屋でバイヤーとして働く中で「より良くつながっ

て生きる」という想いを形にしたいと思いました。そして、バイヤーで得た知識・経験を活かしつつ、フェアトレード商品を提案する場として始めたのが「シサム工房」です。

畑 チャリティーなどはどこか「施す」感覚がある一方で、事業は「一緒に」といった感覚ですね。京都生協も事業を通じた社会貢献、暮らしへの役立ちを掲げているので、非常に共感できます。

「シサム」はアイヌ語で「良き隣人」の意味と聞きました。京都生協の理念も「頼もしい隣人たらん」、共通する「隣人」に興味を尽きません。社名の由来はどのようなものですか。

水野 社名はわが子の名前を考えるようなもので、いろいろと悩みました。かつてアイヌの人たちが本州の人たちを「隣人」という意味で「シサム」と呼んでいたのを本で読み、そこに「良き」という意味を込めました。地理的な距離が遠くても、世界の人たちと「隣人」という意識で付き合っていければいいと思いました。